



株式会社クラロンスポーツ

福島市

みんなので育てる地域福祉



福島市

取材協力
株式会社クラロンスポーツ
〒960-8164
福島市八木田字並柳58
TEL 024-546-0135
FAX 024-545-1345

働くことに喜びを感じる 職場づくりを

～障がい者も頼られる人材に～



「いままでリストラしたことはないし、障がい者だって辞めさせません」と、田中社長は従業員を守り続けます。

クラロンでは、創業から現在まで障がい者の雇用を続けています。代表取締役社長の田中須美子さんは、「もともとは肌着の製造から始まりましたが、先代の社長が、これからはスポーツ熱が高まる」と体操着に製品を転換しました。ですが障がい者を雇用する経営理念は創業当時から変わっていません」と、話してくれました。

「職場に障がい者がいて当たり前」
創業当時から続く障がい者雇用

福島市にある株式会社クラロンスポーツ(以下クラロン)は、従業員数137名のうち、障がい者39名(うち重度10名)が働いており、障がい者雇用率が35.8%と、県内企業の中で最も高い割合になっています(3年連続1位)。今回は多くの障がい者を雇用するために、企業としてどんな工夫をしているのかご紹介いたします。



氏川専務は「会社を思う気持ちなど、私たちも見習うところが多い」と、言います

創業時から雇用していたこともあり、昭和41年に雇用対策法で障がい者雇用が義務づけられたときも、特に対応することもなかったと言います。

専務取締役の氏川守義さんは、「昭和45年、近くに現在の福島大学附属養護学校が移転してきたこともあって、市内の特殊学級(現・特別支援学級)を持つ中学校も含め、多くの学校から生徒たちの就職相談をされるようになり、それをきっかけに本格的に生徒たちの受入れもするようになりました」と、話します。

障がい者と健常者が効率よく
作業するための3つのポイント

工場を拝見すると、反物に型を写す作業から裁断、縫製、仕上げなど



福島第四小学校に通ったことのある宇宙飛行士の土井隆雄さんが宇宙へ持って行った写真プリント入りのTシャツは、後輩たちからのプレゼント。もちろんクラロンの製品です。



基本はオーダーメイド。顧客により異なるデザインにも柔軟に対応しています。

障がい者もおり、「仕事ができれば健常者



製品によってミシンも変わるため、さまざまな技術が必要となります。

平素の訓練

は、技術的指導を各班の班長が行います。班長の中には障がい者もあり、「仕事ができれば健常者

連の作業場では、健常者と障がい者が入り交じって同じ仕事に就いています。ここでは障がい者が作業をしているとは思えないほどの一体感があり、流れ作業で製品ができあがっていきます。

氏川専務は、障がい者と健常者が効率よく作業するためのポイントを、**「適材適所」**、**「教育訓練」**、**「分業化」**の3つを挙げます。

養護学校からクラロンに就職する場合、ミシンがけや仕上げなどの訓練を2ヶ月行います。その時、個人の特性を活かせる配属を決定しますが、「その人の能力を最大限活かせる作業と、効率化を図るために生産ラインを分業化しています。障がい者でも戦力ですから、会社としては仕事をしやすい環境を整えることが大切です。でも訓練中とは異なる作業のほう得意の人もいますから、見極めは難しいですね」と、氏川専務。



積極的にアビリンピックへ参加することで個人の技術向上を図ります。

でも障がい者でも関係ない」という、社風を表しています。「障がい者だからといって、仕事を限定するようなことはしていません。訓練を行うことで、高い技術を習得することも可能です。昨年のおくしまアビリンピック2008(※)で優秀賞を獲れたことが、その表れです」と、田中社長は誇らし気に話してくれました。

また日常生活における相談などは、県の講習を受けた障がい者専門の「職場生活相談員」3名が中心となり、組織的に取り組んでいます。田中社長は、「障がい者を孤立させてはいけません。こちらから積極的にあいさつや声掛けなどのコミュニケーションをとるようしています。本人が抱えている悩みや相談事を聞いてあげること、本人たちも安心して仕事ができると思います。それに多くの健常者と一緒に仕事をする中で、社会性を学ぶことができますから、地域での生活にも役立つのではないのでしょうか」と、仕事の教育だけでなく、社会参加していくために必要

な訓練も取り入れていきます。

企業における地域貢献と障がい者雇用の促進

どうしたら障がい者が一生懸命働ける職場環境をつくれるのか、田中社長に聞いてみました。「まず自分が会社に頼りにされているという実感を持つてもらうこと。それが仕事のやりがいにつながるのだと思います」。

クラロンでは毎年、仕事納めの日に無遅刻・無欠勤の従業員を表彰しています。「昨年は13名のうち10名が障がい者でした。感謝とご苦労様の気持ちを含めて、ちょっとした手紙とキーキを贈るんですが、それを仕事のやりがいにして、翌年もがんばるみたいです」と、田中社長は笑顔で話してくれました。

創立者である故田中善六先代社長の障がい者と健常者が一体となつて、ひとつの製品を作り上げようという理念を守って、がんばっているクラロン。氏川専務は「ありがたいことに、うちの製品は県内外、多くの方に使っていただいています。私たちがよりよい製品を作ることで、周辺地域との結びつきと障がい者雇用の促進につながるればいいですね」と、企業が得意な障がい者の社会参加を願っています。

※アビリンピックは、障がいのある方々が日常生活環境を整え、技術を磨く大会です。障がいのある方々の就業能力の向上を図るとともに、広く障がい者に対する社会的理解と意識を高め、障がい者の雇用の促進と地位の向上を図ることを目的として開催しています。